

名建築家 発想すごい

熊本高専八代キャンパス学生ら

熊本高専八代キャンパスの学生らが18日、八代市西松江城町の市厚生会館を見学した。八代民族伝統芸能伝承館（仮称）の建設に伴い、西側の別館が7月から解体されるのを前にした見納めの企画。



入り口から高さを変えるように設計されたロビーを見学する高専生ら＝八代市

市厚生会館 別館解体に伴い見納め企画

厚生会館は、1962年7月に開館。駒沢オリンピックック体育館や銀座ソニービル（いずれも東京）などを設計し、東京大教授なども務めた建築家の故芦原義信氏が手掛けた。県内初の公共ホールで、別館には会議室や和室があり、市民に広く使われてきた。

建築社会デザイン工学科3年の41人を、芦原氏に詳しい同高専の森山学教授が案内。別館の自然光が入るロビーや、八代城跡の石垣が見えるよう設計された窓などを見て回った。

森山教授は「広場の大きさも計算され、本館と別館の壁に囲まれ安心感を抱く広さになっている」などと、芦原氏の建築思想を説明。森田寛奈さんは「別館の大きい窓から光が入る様子がすごくきれい。人工のライトと自然光が交互に配置された廊下など、発想がすごいと感じた」と話した。

（中村悠）